

## 当院にて腹膜透析を受けられる方へ

—「腹膜透析の患者予後と治療方法についての調査、2017-2020 (PDOPPS2)」へご協力をお願い—

研究機関名 岡山済生会総合病院・岡山済生会総合病院附属外来センター

研究責任者 内科 平松 信

研究主幹組織 日本腹膜透析医学会

試験統括医師 特定医療法人あかね会土谷総合病院 川西 秀樹

### 1. 研究の概要

#### 1) 研究の背景および目的

今、日本の透析医療は世界一といわれています。しかし、「なにが違うからどれだけいいのか」をきちんと比べた調査や研究は、これまでこの調査のほかにはありませんでした。

そのため2013年から3年間にわたりオーストラリア、カナダ、日本、ニュージーランド、タイ、イギリス、英国の7か国で腹膜透析療法の大規模な調査が行われました。そして2017年から第2期の調査が、オーストラリア、カナダ、コロンビア、日本、ニュージーランド、韓国、タイ、イギリス、および米国の9か国で、開始されることになりました（アメリカの非営利研究機関アーバーリサーチが主宰し、日本では、特定非営利活動法人日本腹膜透析医学会がこの調査のお手伝いをしています）。しかし、調査は、研究者や医師だけではできません。患者さんのご協力が必要です。患者さんのご協力によりえ得られる検査結果などの貴重なデータをもとにして、世界各国の腹膜透析の現状を比べてみると「どんな透析をするとどのような長所・短所があるのか」がわかります。この結果が、腹膜透析療法の進歩のため、そして世界中の腹膜透析をしている患者さんの将来の治療に大きく役立ちます。

世界中の患者さんとそのご家族のために、あなたにもぜひこの調査へのご協力をお願いしたいと思います。

### 2. 研究の方法

#### 1) 研究対象者

当院にて腹膜透析を受ける方を対象とします。

#### 2) 研究期間

岡山済生会総合病院 倫理審査委員会 承認後から3年後（2020年中旬予定）

#### 3) 研究方法

当院にて腹膜透析を受ける方について、当院担当者が以下の情報を収集させていただきます。

#### 4) 使用する情報

人種、性別、初めての慢性透析または移植治療の日、年齢、糖尿病罹患の有無、当院での最初の腹膜透析トレーニング開始日、当院での最初の在宅PDを開始した日、これまでの在宅腹膜透析の有無、最初のハイブリッド(腹膜透析+血液透析)、透析を始めた理由、使用された腹膜透析様式、透析様式の変更、透析の中止、生存状況、血液透析変更後の状況

#### 5) 外部への試料・情報の提供

調査内容はアメリカのPDOPPSセンターに報告されます。また、その内容は日本を含めた世界のPDOPPS研

究者により日本や海外の学術雑誌や学会で発表されることがありますが、いずれの場合も、あなたのお名前やご住所などの個人を特定できるような情報は病院外へはできません。

## 6) 問い合わせ先

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

岡山済生会総合病院・岡山済生会総合病院附属外来センター 内科

氏名：平松 信

電話：086-252-2211（大代表）